

コレクション展 「The風景～徳山八景とともに」 作品リスト

周南市美術博物館

期間:11月11日(木)～12月19日(日)

※展示順 ※各作家の略歴は裏面に紹介しています。

No.	作家名	作品名【よみ方】	点数	制作年	材質	サイズ(縦×横 cm)
1	前田麦二	徳山風景	1	制作年不詳	油彩・キャンバスボード	24.0×33.2
2	宮崎進	裏山	1	1941(昭和16)年	油彩・キャンバス	31.8×40.9
3	宮崎進	暮色(徳山湾)【ぼしよく(とくやまわん)】	1	1979(昭和54)年	油彩・キャンバス	45.5×37.9
4	澤野文臣	山門(龍文寺)【さんもん(りゅうもんじ)】	1	1995(平成7)年	紙本彩色	100.2×136.6
5	澤野文臣	浄森(権現様)【じょうしん(ごんげんさま)】	1	1994(平成6)年	紙本彩色	116.7×91.0
6	澤野文臣	鼓海の島々【こかいのしまじま】	1	1995(平成7)年	紙本彩色	97.0×145.7
7	澤野文臣	遠石の杜【といしのもり】	1	1995(平成7)年	紙本彩色	136.0×174.0
8	澤野文臣	回天の里	1	1995(平成7)年	紙本彩色	90.7×174.0
9	澤野文臣	大玉杉の古木【おおたますぎのこぼく】	1	1995(平成7)年	紙本彩色	176.0×136.0
10	澤野文臣	東浜崎の夕映【ひがしはまさきのゆうばえ】	1	1995(平成7)年	紙本彩色	135.5×173.5
11	澤野文臣	蓮池	1	1995(平成7)年	紙本彩色	145.7×112.0
12	伝 大庭学僊	徳山真景図	1	制作年不詳	絹本着色	71.3×132.0
13	長谷川雪堤 ^{せつてい}	四季景物図(※四幅対のうち夏は欠)	3	制作年不詳	絹本着色	春 133.1×56.7 秋 132.9×56.6 冬 136.4×56.7
14	小田海僊	漁樵山水図【ぎょしょうさんすいず】	1	1853(嘉永6)年	絹本着色	144.5×70.7
15	尾崎正章	秋吉台カルスト高原	1	1960(昭和35)年	油彩・キャンバス	112.8×162.5
16	尾崎正章	夫婦漁船帰港(ふるさとの潮入川)	1	1995(平成7)年	油彩・キャンバス	194.0×99.6
17	吉田初三郎	港徳山之図【みなととくやまのず】	1	1947(昭和22)年	絹本着色	64.5×111.0
18	河上大二	風景(高水)	1	1941(昭和16)年	水彩・紙	28.8×37.2
19	河上大二	風景(富海 末田)【ふうけい(とのみ すえだ)】	1	1936(昭和11)年	水彩・紙	30.7×37.3

計19件

計21点

作家略歴

- 長谷川雪堤 (1813-1882) 江戸時代後期の画家。江戸の書家であった長谷川雪旦の息子。父から書画を習う。寛政3年の江戸城修繕の際には、狩野晴川院の推薦により、北の部屋の小襖上4枚に二見ヶ浦を描く。雅号には他に梅紅、巖松齋を使う。
- 小田海僊 (1785-1862) 江戸時代後期の画家。周防富海の回船業河内屋に生まれ、下関の紺屋小田家の養子となった。22歳の時、京都に上り四条派の松村呉春の門に入り、頼山陽に教えを受けて南画に転じた。1824(文政7)年、萩藩に絵師として召し出され、1826(文政9)年より再び京で活動した。中国元・明時代の古画を研究し、独自の画風を確立。人物画を得意とする。
- 大庭学僊 (1820-1899) 日本画家。徳山の刀工三好與次兵衛(みよしよじべえ)の次男として生まれる。11歳で徳山藩の御用絵師朝倉南陵に師事し、南江と号す。のち京都に出て、小田海僊に師事し学僊と改名。独立し、萩で町絵師として活躍。維新後、東京に移り、南北両派を合わせ独自の画風をつくり、山水・花鳥画を得意とした。第1回内国絵画共進会審査員。明治宮殿杉戸絵の制作にも参加。晩年長府、下関へと移り住み、80歳で死去。
- 吉田初三郎 (1884-1955) 大正から昭和にかけて活躍した鳥瞰図絵師。京都生まれ。友禅の図案工などを経て、洋画家を志し関西美術院で絵画を学ぶ。大正2年に刊行された京阪電車の沿線案内図が、男山八幡宮を訪れた皇太子(のちの昭和天皇)の賞賛を受けたことなどから、パノラマ風の観光案内図の制作を手がけるようになった。生涯において2000点以上の鳥瞰図を作成。大胆なデフォルメを施した独特の絵図は「大正広重」と呼ばれ、鉄道旅行ブームの中で人々の人気を博した。
- 前田麦二 (1891-1974) 1891(明治24)年下松生まれ。のち徳山に転居。1926(大正15)年河上大二、久保白船らと徳山洋画協会を結成した。1929(昭和4)年に岸田劉生が徳山へ来た折には共に写生に出かけるなど交流をもった。椿貞雄に勧められ1931(昭和6)年に「小樽の風景」を国画会に出品し入選した。戦後は1946(昭和21)年に結成された防長美術家連盟に参加。1959(昭和34)年徳山市文化功労者。1971(昭和46)年昔の生活や風俗を記録した「徳山の思い出」を制作し1973(昭和48)年に画集『徳山の思い出』として出版した。
- 河上大二 (1893-1949) 東京生まれ。神戸須磨で幼少期を過ごす。1918(大正7)年東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科卒業。1921(大正10)年療養のため徳山に転居。1926(大正15)年前田麦二、久保白船らと徳山洋画協会を結成。1927(昭和2)年帝展に「暮れ行く漁村」が初入選、以後毎年帝展に出品。1946(昭和21)年に結成された防長美術家連盟に参加。1947(昭和22)年日展委員。
- 尾崎正章 (1912-2001) 1912(明治45)年徳山町(現・周南市)生まれ。胸部疾患により日本大学文学部を中退、京都で療養生活を送る。1938(昭和13)年から美術工芸店に勤務しながら本格的に絵を描き始め、春陽会展、一水会展に入選。1943(昭和18)年に帰郷、戦後、安井曾太郎に師事。1946(昭和21)年防長美術家連盟に参加。日展で審査員・評議員・参与、一水会で常任委員、運営委員を歴任。数多くの作品を市に寄贈、1995年には新南陽市(現・周南市)郷土美術資料館・尾崎正章記念館が開館。
- 澤野文臣 (1914-2005) 日本画家。徳山町(現・周南市)浦山生まれ。1937(昭和12)年京都市立絵画専門学校卒業。同校研究科を経て、堂本印象の画塾、東丘社へ入る。戦後1956(昭和31)年第12回日展で特選白寿賞受賞。翌年、「網船」で連続受賞。1964(昭和39)年日展菊華賞受賞。1969(昭和44)年日展会員、東丘社理事。1968(昭和43)年と1985(昭和60)年には日展審査員に就任。1992(平成4)年山口県選奨受賞。1996(平成8)年「詩情あふれる自然への眼差し 澤野文臣展」開催(徳山(現・周南)市美術博物館)。
- 宮崎進 (1922-2018) 洋画家。徳山町(現・周南市)御弓町生まれ。1942(昭和17)年日本美術学校油絵科を繰り上げ卒業、同年入隊、戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、上京。1967(昭和42)年第10回安井曾太郎記念賞受賞。1972(昭和47)～74(昭和49)年渡仏、帰国後はアトリエを鎌倉に移す。1995(平成7)年小山敬三賞、1998(平成10)年第48回芸術選奨文部大臣賞、2007(平成19)年旭日小綬章受章。2009(平成21)年から周南市美術博物館名誉館長をつとめた。